

天桂伝尊の研究

鈴木 祐孝

はじめに

『正法眼蔵弁註』の研究をはじめて十年來なるわけであるが、その動機、つまり道元禪師の『正法眼蔵』の参究と、その実践を行ずるのに歴代祖師方はその限りを尽くして『正法眼蔵』に接した姿を自らがどう捉へ、それをどう読み込むのかという点である。が、今それを反省する時、いよいよその研究の領域が増え、又多くの視点からの問題を一つ一つ確認をしていかなければならないということが、研究を通しての現況である。つまり天桂の『弁註』をベースにして、あくまでもその『弁註』に系統だつて関わりをもつていゆるの『眼蔵』の註釈書を第一点に注目してきたわけである。その内容は、卍山派グループに位置する面山師の『雪夜炉談』『正法眼蔵闢邪訣』『正法眼蔵聞解』、さらに乙堂喚丑の『正法眼蔵誡絃講義』、万仞道坦の『正法眼蔵諫蠹錄』などである。これらに対して、天桂派グループとして父幼老卯の『正法眼蔵

那一宝』、心応空印の『正法眼蔵逆驢乳』などである。これらは卍山派、天桂派の対立するグループに分類できるが、内容を考察すると結局は次の二つになると思われる。

一つは眼蔵の編集に関わる問題。もう一つは、嗣法論に関わる問題である。これらについては鏡島元隆博士はじめ先学諸先生のご指摘されている所であるが、その注意すべき点を考慮しつつ小論は特に、『正法眼蔵逆驢乳』にスポットをあててみたい。

(一)

つまり『逆驢乳』(と以下略す)は、先に示した二つの問題のうち、編集論に関しての著作である。それらを注目し、取上げる理由をみてみたい。第一点は、これまでにも卍山派系統の諸師、いわゆる面山師に代表されるべき眼蔵編集に関する著作、『正法眼蔵闢邪訣』を少しみてきたわけであるが、この著作は天桂の『弁註調絃』が問題にしたいいくつかの点を抽

出して「第一の疑に云く」という示し方で天桂を批判するわけであるが、この批判する点を天桂に参学した門人である空印はどの様に師の説を受け取め、展開したのか？ という点である。

又第二点は、この『逆驢乳』は完璧に編集論に限っての論旨の展開であり、師、つまり天桂の嗣法に関する主張がこの著作にみられないのか、又みられるとするとどの様な個所に見出されるのか？ という点を究明、考察することにより、より一層師としての立場、結局は天桂の立場を、空印にしていよいよ明確になるのではなからうか、という点がその第二の理由である。

次に問題究明の方法であるが、これ又従来の方法により、それぞれの著作を比較検討し、その都度天桂の態度、面山師、空印の考えをみていくことにより、天桂の思想のあり様をみていこうとするものである。

(二) 『逆驢乳全般』について

一読してみると、この著作は完全に『關邪訣』に対抗する為の作ということになる。ということとは、先にもすでに述べた様に、眼蔵の編集に関する問題の方向から考察された結果、天桂が異解の人和形容されるわけである。しかしこの問題は、これまでも述べておるわけであるが、眼蔵が筆写、伝

写の形態を経由して、それぞれの立場の人々の目に入った段階で、内容と共にある部分が何らかの問題点をもったから削られたり、又加えられたりした過程は、結局は異本の校訂作業からくる問題のあり方と捉へて考察することが既に軽率であらうか？ つまりもつと述べるなら、異本を数多く見たという事実の人は、必ずしもその校訂を終えた本をみたということになるのであらうか？ もしその通りであるとするならば、必ずある限定された個所が、天桂を異解と称する人々にとっては同一個所をもつてして、異解と呼ぶ理由とならなければならぬと思われるのであるが、実はそうではなく、それぞれの立場においてなされているといつてもよいであらう。つまり空印は『關邪訣』のどの部分が、天桂のどの説とどう異なるのか、という点の示し方はせず、まづ『關邪訣』を引用しつつ、その引用を分類し、さらに段落を区切つて論を展開するのである。しかるにそこからは当然師と仰ぐ、天桂が何故に義雲本の60巻に依拠して弁註せられたのか？ という疑問には、次の様な示し方しかみつからないのである。示すなら

甚キ者ハ謂ウ、義雲ハ井翁ノ七十五篇ヲ添除シテ六十篇ト為スト
皆是レ機巧シ詐ヲ造ス也ト（以下の引用は全て正法眼蔵註解全書
第十巻に依り、各々の引用頁数は略す）

という示し方を考察すると、正に眼蔵を編集すること

事態、非常な出来事であり、道元禅師の著述をそっくりそのまま編集することの苦勞に思いを寄せることが大である。しかるにさらに次の様にもでてくるのである。

義雲ハ何モ好キデ勝手ニ添除ヲ繰リ返シ60巻本ヲ編集シタノデハナイ。ソノ様ナコトヲシテ何ガ成ズルトイウノカ。モシ仮リニソノナコトヲシテイタトスルナラバ何故ニ永平寺ノ中興ノ祖ト称セラレルノカ

という様な示し方で論が展開するのである。いかに『逆驢乳』の著作の意図が『關邪訣』に対するものであったにしても強烈な示し方といわねばならないであろう。さらに『逆驢乳』を考察していくと次の様に出てくるのである。

既ニ螺蛤ヲ返逆ノ者ニ擬シテ、奢、タカブリ、ヨクミルト魯カ者ニスギナイ

と。このような示し方からでは、天桂のどこが、どの点が異解であるのかという論理的な線は全くみえず、只面山師の天桂に関わる攻撃の何ものでもないということだけが強調されているとしか思えないのである。この点も著作の述作意図からすれば当然であるが、これだけでは小論の考察理由がどこかに飛んでしまうわけで、『關邪訣』で述べる第一の疑に云くから順次、『逆驢乳』と対する個所をみていくことによって、小論の考察理由を明らかにしていこう。

まづ、『關邪訣』は次の様に示す。

近頃、永平の門下に邪疑を起す者がおる。誤って永平の正法眼蔵の本は、止義雲が集めた所の60巻のみと。それは『弁註』とかいう一篇に論じられているが、今6六つの邪疑を挙げてその『弁註』を論破するものである。

という程の意味が込められてある文に対し、空印の『逆驢乳』は次の様に『關邪訣』に反論するのである。

それは「甚しく罔誣し、奸を造することだ、つまり、あなどり、そしり、みだりにやかましくしているだけだ、と。

『弁註』で述べられていることは偽りである、と強調するのは面山さん、あなただけですと。つまり義雲の60巻だけなら、その様に天桂が責められて然るべきであるが、そうではなく「拾遺」としても註弁しているのだから、その様な疑いは順序よく論じていけばきつと間違いを気付くであろう。という意味を込めて次の様にさらに続けるのである。

面山師は言う、邪疑者（天桂）は未だ泉福寺本をみずして、いかにも親しく自ら見た様に述べるのは何事か。

これに対して空印は、

泉福寺の住持は義雲の60巻と、影室に有る篇を校合して60巻として天桂に贈ったのである。それまで天桂は75巻を以て校訂できなかったのであると。

おわりに

以上の二点からまとめらるるならば、筆写、伝写の時、つまり校訂作業の結果、ある本をみたのか、否かという点が問題になり、その答えは天桂には直接聞けない環境の時、天桂を師と仰いだ参学者は、あらん限りの立場で師を護ろうとする立場、結局は空印の立場となるわけであるが、その著『迸驢乳』においてみる限りでは、天桂が60巻本に依った、その60巻本ですら75巻本をみて校合されたところの60巻本と強調する点は、論争の中心で編集論の問題点からするとかなり強引な論証であり、不自然な結果を予測させるのであるが、空印、そして天桂に立ち帰った時は、60巻本も、75巻本もなく只、道元禪師のお示しをどの様に戴くのか？ ということのみに専心したものと思われるのである。つまり面山師が邪疑に云くという程の示し方も何か、作られた、結局は天桂没後になされるあらゆる批判の書の内容は結局、論争を論争とするだけの響きしかもたない言葉ともれる感がするのである

が、この編集論に限っては、やはり天桂のあまり強い自己の見識がさせたものとするのが妥当なのであろうか？ 現在は疑問符をそのままにしておくしか論を展開できないのが現状であることを明記しておかなければならない。いづれにしても、編集論に関わる問題はさらに具さな考察が、あらゆる方面から通して研究されなければ如何ともしがたいのであるが、小論の展開は、あくまでも冒頭にも述べた様に、天桂伝

尊の思想の淵源を究むる為の順次的な、考察過程の一つであり、その中に面山師の『正法眼藏闢邪訣』と空印の『正法眼藏迸驢乳』の比較対象から導かれる所の一視点からの問題把握であり、これらをさらに深く追述されることが、課題である。

小論発表終了後、金沢文庫の高橋秀栄先生より貴重かつ今後の課題として深く研究されなければならない次の質問を頂いた。

「天桂は、御抄をみたでしょうか？」ということでした。私は恐らくみたでしょう。と答えたのですがその確実なるものがあるません。兄、鏡島博士の「天桂宗学」について（蒐書大成月報8号）、『道元禪師とその門流』等によつての答であり高橋先生の意図された答にはなっていないと思います。というのも私の頭には絶ず次の一文があるからです。

「天桂が眼藏に註弁をふるった時代には本山所蔵の原本も得られず『経豪抄』も世に行なわれない時にこの偉業が成し得た（道元禪一巻一八二頁誠信書房刊）」

この文章との関係を一日も早く解決しなければならぬのですが以上の点を考慮しつつ課題とさせて頂きます。さらに先生は、「みたとすれば現地に行つたのでしょうか？」ということでした。「この点は全く手掛りになることは何もわかりません」と答えたのですが現在も同じです。諸先生方の御教示を切にお願い申し上げます。誌上にて先生のご質問に謝意を表するものであります。

△キーワード▽ 天桂、嗣法論、弁註

（駒沢大学大学院修了）